

## 中部圏支部臨床一般部門寄生虫検査アンケート報告 第1報

◎平田 基裕<sup>1)</sup>、松村 隆弘<sup>2)</sup>、金森 隆樹<sup>3)</sup>、林 晃司<sup>4)</sup>、川井 孝太<sup>5)</sup>、長嶋 和子<sup>6)</sup>、井上 佳<sup>7)</sup>、星 雅人<sup>8)</sup>  
医療法人 青山病院<sup>1)</sup>、学校法人北陸大学<sup>2)</sup>、富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院<sup>3)</sup>、岐阜赤十字病院<sup>4)</sup>、磐田市立総合病院<sup>5)</sup>、藤田医科大学病院<sup>6)</sup>、独立行政法人地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター<sup>7)</sup>、藤田医科大学<sup>8)</sup>

【はじめに】寄生虫症は新興・再興感染症と言われ国内での発生に加え、国際交流により様々な寄生虫が持ち込まれている現状があり、寄生虫検査に求められるものは増していると言える。今回、我々（社）日本臨床衛生検査技師会中部圏支部臨床一般部門では令和3年1月に寄生虫検査の現状を調べ、今後の活動に役立てる目的でアンケートを実施したので報告する。

【方法】中部圏支部から圏内6県の技師会に対しアンケートの依頼をし、各県技師会から会報や電子的な方法などにより各施設に回答を依頼した。回答はインターネット上にて行う形式とし、Google フォームを用いて基本的な内容に対しては選択肢を作り、施設の状況に合う選択肢がない場合は自由回答出来る形で回答を求めた。

【結果】中部圏支部6県の163施設より有効回答があった。ここでは概要のみを示す。1) 寄生虫検査の実施について、実施125施設76.7%、未実施38施設23.3%であった。2) 検査体制について、自施設14施設11.2%、自施設+専門機関64施設51.2%、外注37施設29.6%であった。3) 年間の

糞便検査の依頼数については0件15施設13.16%、1～10件62施設54.39%、11～20件13施設11.40%、21～100件15施設13.16%、100～1000件6施設5.26%、1000件以上3施設2.63%であった。4) 寄生虫検査で困っていることについては、あるとした施設が71施設あり、内訳として（自由回答の為大別）検査が実施できる技師の不足8施設11.3%、知識・経験の不足による不安46施設66.2%、教育に対する不安5施設7.0%などの回答があった。

【考察】1) 検査は回答施設の78.5%が実施していた。2) 検査体制は自施設で検査を行っている施設が65.6%あり多くの施設で検査が行われていた。3) 依頼が年間で0から10件と少ない施設が67.55%と多く、依頼数が少ない実態が分かった。4) 寄生虫検査で困っていることでは、72施設があると回答し、実施できる技師の不足、知識・経験の不足、教育に対する不安など多くの施設で不安を抱えていることが分かった。本アンケートの結果を受け、今後の支部部門としての活動を検討していきたい。

【連絡先】0561-82-1118 内線131